

国際センター

コロナ禍での国際交流活動 2021・2022年

国際センター 早野曜子

2016年に発足した国際化センターは、「自由学園を世界に、世界の課題をキャンパスに」をビジョンとして主に女子部・男子部・最高学部の国際交流プログラムのサポートを行なっている。中学生・高校生の海外渡航が一般化して来た中で2020年1月末から感染が世界規模に広がったCOVID-19により、2021・2022年度は移動を伴う国際交流は中止・延期を余儀なくされた。一方で、コロナ禍で急速に普及したソーシャルネットワークによりオンラインでの交流も可能となった。

2022年3月に発行された「年報25号」以降、主に女子部・男子部・最高学部で実施された国際交流プログラムについて報告する。

I 受け入れ【英語助手】

2021年度

①イギリスのウインチェスターカレッジから英語助手として来校希望者があったものの、日本国内への海外渡航者受け入れ制限によりギャップイヤー制度を用いた高校卒業の生徒受け入れが不可能となった。理由は英語教授する専門的訓練を受けていないため、就労ビザの申請ができなかった。

②卒業生のお孫さんと日系アメリカ人(日本パスポート所有)から9月から学園でのTA希望あり。8月に面接し、2021年9月からボランティアとしてTAに採用。卒業生の祖母宅から通学し、英語助手のボランティアのお礼として日本語レッスン(週2回)を実施。

Hanna Matsukawa 2021/9/1 - 2022/6/2 まで滞在

2022年度

①2021年8月、イギリス Cheltenham Ladies' College 卒業生より英語助手応募のメールあり。

コロナ禍で海外からの渡航者制限中であつたが、2022年4月から採用を決定(2021/10/8)。

ワーキングホリデービザ申請のため、ERFS の書類を提出。4月25日にVisa取得。光風寮に滞在し初等部から学部の授業をサポートした。

Diana Edward 2022/5/13-2022/7/23 まで滞在

②2022年9月13日からHaberdashers' Girls' Schoolの卒業生 Hannah Moshal が来日。ワーキングホリデービザ申

請のため、ERFS の書類を提出。2022年12月まで光風寮に滞在。

Hannah Moshal 2022/9/13-12/12

③同時期に Cheltenham Ladies' College から希望者あり。自宅が都内にあった為、通学で来校し、TAボランティアのお礼に日本語授業を実施(2/週)。

Charlotte Ritchie 2022/9/5-12/23

【デンマーク体操TA】

2021年度 派遣中止

2022年度

3月オレロップ体育アカデミーよりTeaching Abroadの派遣2名決定通知あり。

ワーキングホリデービザ申請のため、ERFS 書類を提出。

9月1日-9月13日女子部・男子部生徒の生徒宅にホームステイ、その後学部男子寮・女子寮に滞在。

Hannah K Holm 2022/9/1 - 12/23 滞在

Kristian Enevoldsen 2022/9/1 - 12/23 滞在

II 派遣

2021年度

① オレロップ体育アカデミー奨学生

2月学部3年根上悠我決定。オレロップはコロナ集団感染が2度発生したが、留学生受け入れは継続して行なわれた。2021/8/3 - 2022/6/24 オレロップ留学

② トビタテ留学プログラム

2021年度 文科省の留学促進プログラム「トビタテ・留学ジャパン」に高1根本咲羽さんが応募し、オンラインでの面接を受け、2021年4月26日採用が決定。夏休み3週間弱タイでの国際ボランティアを実施予定であった。

実際には、コロナ禍で延期となり、2022年12月にネパールへ渡航先を変更し2023年1月に実施された。

2022年度

オレロップ体育アカデミー奨学生

5月学部3年2名 荻原渉太郎・中出歩が決定

2022/8/5-2023/6/15 オレロップ留学

III オンライン交流

2021年度

① デンマーク・ラナム・エフタスコーレとの交流

毎年冬に日本に訪れ、高等科2年生と1日交流を行っていたがコロナ禍により来日が中止となった。ラナムエフタスコーレの生徒から Global Friendship Book プロジェクト参加への連絡が3月に届く。男子部高等科3名女子部高等科3名から希望者があり、英語科教師が中心となり、メールでの自己紹介や趣味など交換。4月にメールでの交流をまとめたPDFが届いた。

② 4月15日に自由学園創立100周年のお祝いにオレロップ体育アカデミーの新校長トーマス先生・前校長ウファ校長からお祝いビデオレターが届く。

③ 2021年5月にポメラニアン大学で開催された創立52周年インターナショナルデーに自由学園の紹介ビデオを送付。学園長のお祝いのメッセージのほか、ヒューマンゼミ学生を中心に学園紹介・学部の活動紹介(古井戸再生)・プラスバンド活動など動画編集。5月28日に実施された International Day のイベントはライブストリーミングで共有された。

④ 6月24日 自由学園と交流のある高校(フィンランドのアラヤルヴィ高校・ヴィンペリ高校、デンマークのアレロッド高校、ラナムエフタスコーレ、米国ブロンクス高校、カメハメハスクールへオンライン交流の提案をメールで送付。9月にフィンランドのヴィンペリ高校、デンマークアレロッド高校、アメリカブロンクス高校、カメハメハスクールから交流希望の返信あり。中高英語科の教師が中心となり、交流希望者を募集し、動画配信、オンラインでの交流を検討。

・ 2021年10月ハワイ・カメハメハ高校生徒からビデオレター届く。2022年1月に日本語クラスをとっている生徒3名分ビデオレターが届いた。

12月22日 自由学園から各校にビデオレターを送付。

・ アレロッド高校からオンライン交流希望返信あり。

2022年1月27日にオンラインによる交流を開始。合計5回Zoom交流実施。12月22日高等科生徒ビデオレター作成。アレロッド高校・ラナムエフタスコーレへ送付。

・ 11月29日、フィンランド、ヴィンペリ高校から日本語クラスを受講する生徒による学校紹介ビデオがYouTubeで届く。学園100周年のお祝いメッセージあり。12月自由学園から3名の生徒がビデオレター送付。

・ 12月11日アメリカブロンクス高校からは Flipgrid で生徒が作成したビデオレターが届く。12月に学園生のビデオ送付。2023年1月には同校生徒とZOOMで交流。

2022年度

2022年6月22日ポーランドポメラニアン大学とオンライン交流実施。その後7月12日には同大学のウクライナ人留学生とのオンライン交流を実施、ロシアのウクライナ侵攻による状況下で留学中の勉学に対する意欲や故国での実情を直接聞くことができた。

IV 学校間協定の更新

2023年2月4日ポメラニアン大学と学校間協定の更新相互調印書類を交換(郵送)

V 国際支援

2022年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻で、ポメラニアン大学よりウクライナ人留学生への援助要請が3月に国際化センターへ届いた。これを受け、自由学園で募金を開始。2022年5月、9月に合計1,048,100円を送金し59名のウクライナ人学生に「自由学園奨学金」を支給することができた。2023年3月には友の会からの援助があり154万円を送金。ポメラニアン大学からは、「学園からの寄付は同大学での最多の寄付金で、国境を超えた支援に大いに感謝しており、同大学と自由学園がより親密に、強い協力関係が生まれるよう願っている」とのコメントが届いた。

V まとめ

2020年に発生した新型コロナウィルス感染症拡大により

2021・2022 年度も海外からの生徒受け入れ、及び海外研修・短期留学は中止とせざるを得なかった。

コロナ禍で唯一継続できたのはオレロップ体育アカデミーへの奨学生派遣であった。背景には両校の 90 年に亘る交流の歴史がある。

長引くコロナ禍で物理的移動を伴う交流が出来ない一方で、急速に普及したデジタルツールにより、オンラインによる交流が各学校と実施され、新しい形で交流を継続することができた。

VI 今後の課題

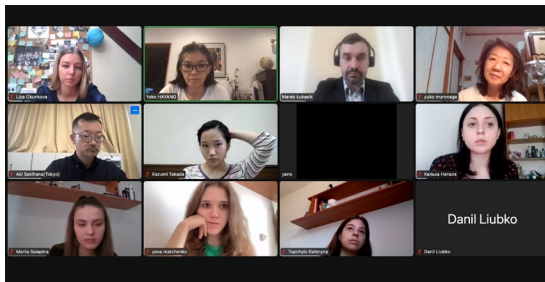
ポスト・コロナの時代に移行する現在、どのような形で国際交流をすることが可能か。多文化理解には何が必要かが改めて問われている。今後は移動を伴う交流と共に、ソーシャルネットワークを用いたオンライン交流の継続も必要であろう。

実際に現地へ入り、それぞれの五感で文化を理解すること、これは身体を通じた理解である。自国の環境に居ながら、画面越しで伝わる他文化理解では決して実感出来ない深い体験と学びに繋がる。

一方では、画面越しではあるが、ウクライナ侵攻の状況を交流するポメラニアン大学から直接聞くことで、遠い場所の出来事としてではなく、友として見える形で支援を行うことができた。

国際交流を推進するセンターとして発足 8 年。2022 年度末に国際交流を推進してくださった矢野恭弘センター長が勇退され、筆者が後任を担うこととなった。

2023 年度からは 4 年ぶりに国際交流プログラムが再開され、名称も「国際化センター」から「国際センター」へと変更した。学園の教育理念を生かし、国境を超えた友情を育むサポートを継続していきたい。



ポメラニアン大学ウクライナ留学生と Zoom 交流



Allerød 高校と Zoom 交流



自由学園奨学金を受け取ったウクライナ学生